

平成22年度 学校評価結果報告書

小松市立芦城中学校

	自己評価				学校関係者評価		次年度の方向（改善計画等）
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	
① 組織的な 学校運営	<起案決済と簿冊整理の徹底化> 教職員が学校教育目標に沿った建設的な起案をし、簿冊の整理の徹底化に努めている。	【成果指標】 起案による決済と簿冊整理の徹底化が図られたか。	起案決済と簿冊整理が A：90%以上 B：85%以上90%未満 C：80%以上85%未満 D：80%未満	1、2学期平均で87.3%の達成であった。起案・決済は定着しつつあるが、簿冊整理が徹底されていない。	B	起案決済については、更なる向上をお願いし各事案については優先順位をつけてお願いしたい。 十分な危機管理対策がなされているようで安心である。毎年続けるよう努力願いたい。	起案決済については、ほぼ定着しつつあり、事務処理の効率化が図られ、生徒と向き合う時間の確保に向けても効果が見られるものの簿冊整理については、更に徹底化のための呼びかけが必要である。
	<危機管理> 防災訓練や危機管理等の研修が行われ安全対策への対応と危機管理体制が確立している。	【努力指標】 火災、地震、防犯の防災訓練、各学期の安全点検が実施できたか。	防災訓練や危機管理研修を A：4つとも実施 B：3つを実施 C：2つを実施 D：1つ未満	6/30に教職員対象の防災訓練、7/1に全校での火災を想定した避難訓練、8/30に教職員対象のAED心肺蘇生訓練、11/1に全校での防犯教室、12/1に地震を想定した全校での避難訓練を実施した。	A	防災訓練や危機管理研修に加え、教職員で防災士の資格取得を目指すことにより防災の意識の更なる高揚が図ればよいと思う。	危機管理については、毎年定例化して実施することにより教職員の危機管理意識の高揚とマニュアルの実施手順の確認ができた。今後も継続していく。
	<省エネや節約の徹底化> 環境教育、削減政策に対する理解や啓発を図り、適切な実践に努めている。	【成果指標】 電気、ガス、水道の節約状況やゴミの削減状況が最低前年度並みであったか。	節約・削減率が前年比 A：7%以上 B：5%以上7%未満 C：3%以上5%未満 D：3%未満	電気、ガス代については、暖房時の温水設定温度や吹き出し空気の温度をそれぞれ3℃、2℃低下させたり、校舎内電灯の間引きにより節約に努めたが、今夏の暑さもあり削減できず、昨年比増となった。水道代、コピー代、ゴミ代は努力の甲斐があり、昨年比減となった。	D	先生方の熱心なご指導に生徒達も呼応して円滑な教育活動が進められているようで頼もしく思う。	次年度もできることを確実に実行し、意識の高揚とエネルギーの節約に努めていく。
② 確かな 学力の 育成	<授業改善> 生徒が「分かった、できた、楽しかった」と感じ、学習意欲が持てる授業を行っている。	【満足度指標】 楽しく、よく分かったと感じて意欲的に授業に取り組んでいる。	分かる、楽しいと感じた生徒が A：80%以上 B：70%以上80%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	授業が楽しい面白いと感じた生徒が1学期75.3%、2学期80.3%、できた分かったと感じた生徒が1学期77.0%、2学期81.0%であった。	A	授業が楽しい面白い、できた分かったと感じている生徒の比率が高く、日を追って増加している点は評価できる。	学力向上については、次年度学校研究を新学習指導要領の完全実施に向けた学力向上に移行していくことが決定されているので、今年度中に課題を整理し組織的な研究実践により、一層の向上に努めていく。
	<学力向上> 生徒の全教科における学力が向上している。	【成果指標】 学力検査（平均点）において、全学年「小松市1位」となる。	学力テストの結果が一度でも A：全学年1位 B：2学年1位 C：1学年1位 D：全学年2位以下	1月実施の学力テストでは小松市中学校10校で1学年4位、2学年2位、3学年1位であった。	C	よく分かるという喜びが楽しいに繋がるような授業に期待する。	生徒全体の学力の底上げを行いながら、全学年小松市1位を目指し教職員一丸となって取り組む。
	<高校入試> 生徒自らがより高い進路を切り開く努力を怠らないでいる。	【成果指標】 小松高校等（附属、石高専等を含む）受験者33%以上である。	志願状況が A：33%以上 B：30%～32% C：26%～30% D：25%未満	今年度は小松44、小松明峰19、小松市立15、小松商業17、小松工業15、寺井3、大聖寺3、翠星1、加賀2、石工専4、富工専1、金工専3、金沢泉丘1、早稲田1、星陵1、金沢2、遊学館1、航空第二1、大谷10、小松北1、小松養護1、錦城養護1、未定3となった。	A	進学については、目的意識を持った選択ができるように特に力を入れてほしい。	
③ 豊かな 心の 育成	<道徳教育の充実> 全ての教育活動の要として、道徳の授業を計画的に行い、教材開発資料分析等授業力向上に努めている。	【努力指標】 研究会等の機会を利用して各教職員が授業研究を行い教材開発に努める。	年に1回以上行った教職員が A：100% B：90%以上100%未満 C：80%以上90%未満 D：80%未満	校内研修会等を通して活発な取り組みが見られた。また他の教職員との授業連携も頻繁に行い、資料の選定や発問の工夫等の授業設計に力を注いだ。授業研究は延べ17回。	B	道徳教育は、より人間らしい生き方をすすめるための1つの指針として大切であり、基本的な生活習慣の確立と併せて取り組んでほしい。	これまで2年間の研究成果を基に今後も豊かな心を育む教育を実践していく。
	<人間関係づくりを育む授業> 学級活動や行事、体験活動を通して、望ましい社会性や人間関係づくりを育むための実践研究を推進している。	【努力指標】 ソーシャルスキル教育の技法を生かした人間関係や社会性を育む授業に取り組んでいる。	年に1回以上取り組んだ担任が A：80%以上 B：70%以上80%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	QUテスト結果から実態を把握し、ソーシャルスキル教育の技法を生かした人間関係づくりに努めた。また12/8にはQU活用のための校内研修を行い、生徒指導担当指導主事から、分析と活用の仕方について学んだ。授業研究は延べ10回取り組むことができた。	B	人とのコミュニケーションをとることが苦手な生徒が増えているのではないと思う。細やかな目配りをお願いしたい。	昨年度の課題となっていたソーシャルスキルの取り組みも9クラスで取り組むことができ、一定の成果を上げることができたが、全学年で取り組む必要がある。
	<基本的な生活習慣の確立> 基本的な生活習慣の確立に努め、快適な学校生活が送れるように自ら率先して毎日の挨拶に努めている。	【成果指標】 自ら率先して挨拶ができる。	自ら率先して挨拶ができる生徒が A：90%以上 B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満 D：70%未満	毎朝、玄関で生徒会役員や生徒指導担当が挨拶運動に取り組んできたが、自ら率先して挨拶ができたと言った生徒は、1学期は77%であったが、2学期は76%となった。	C	いじめや暴力についても防止策がとられ随分減少しているようである。	挨拶については、生徒会を中心とした取り組みを強化し100%の達成を目指す。
④ 健やかな 体の 育成	<健康教育の推進> 日々の保健指導や給食指導を通して、健康について考え、健康な体の育成と健康管理能力の向上に努めている。	【満足度指標】 健康についての意識が高まり、日々の健康管理に努めている。	健康管理に努めている生徒が A：80%以上 B：70%以上80%未満 C：60%以上70%未満 D：60%未満	早寝早起き朝ご飯等、健康管理に努めた生徒が1学期81%、2学期75%であった。朝にミニ健康指導を実施したり、市P連の調査を休中の必須課題に設定したりしながら、啓発や意識喚起に努めてきた。	B	早寝早起き朝ご飯運動については、保護者にも働きかけ、100%の生徒が実践できるようにされたい。	早寝早起き朝ご飯運動は、PTAの役員会を通して保護者への働きかけを強化する。また学校でも保健指導や食育指導を通して補強していく。
	<授業交流による小中連携> 校区の小学校6年生を対象に教職員の授業交流による小中連携に取り組む、児童理解とスムーズな中学校生活への移行に努めている。	【努力指標】 授業交流を推進している。	授業交流を各小学校と A：3回以上 B：2回以上 C：1回以上 D：0回	11/12と12/3の両日、校区の小学校に出向き、合計7クラスで磁力と磁界をテーマにした理科の出前授業を実施し学習意欲の喚起と児童理解に努めた。	A	文化祭や体育祭も地域に発信してみたい。	今年度は、出前授業での交流を行ったが、出前授業の教科枠を広げたり、学校行事での交流や生徒会活動での交流、中学生による学校紹介、教職員間の交流等、連携できる部分の検討をしていき実践に繋げる。
⑤ 家庭・ 地域との 連携	<学校行事・PTA活動等への参加> 学校行事・PTA活動等への保護者の積極的な参加により、諸活動の活性化を図っている。	【成果指標】 保護者が学校に強い関心を持ち、学校行事・PTA活動等に積極的に参加している。	保護者の参加率が A：3割以上 B：2割以上3割未満 C：1割以上2割未満 D：1割未満	総会216名、給食試食会34名、奉仕作業100名、教育講演会77名、ようこそ先輩33名、1年親子ボランティア779名、ブロック懇談会113名、学校保健委員会60名、教養講座42名の参加があった。	B	授業交流による小中連携はスムーズな中学生生活への移行に有効である。	PTA活動のより一層の充実に向けて側面から支援していく。
						芦城中学校の持ち味である積極的なPTA活動の継続を願う。	